

**JASDAQ**

平成 22 年 10 月 29 日

各 位

会 社 名 株式会社 アテクト
 代表者名 代表取締役社長 小高 得央
 (JASDAQ・コード4241)
 問い合わせ先
 責任者役職名 管理ディヴィジョンリーダー
 氏 名 飯野 磨
 TEL (072) 967 - 7000 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年3月期第2四半期連結累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)および第2四半期個別累計期間(平成22年4月1日～平成22年9月30日)の業績予想について、平成22年4月28日付当社「平成22年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 23 年 3 月期 第 2 四半期連結累計期間業績予想の修正等 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-------------------------------------|--------|---------|---------|-------|-----------------|
| 前回予想 (A) | 2,069 | 162 | 142 | 93 | 27 円 96 銭 |
| 今回予想 (B) | 1,666 | 31 | △ 18 | △ 50 | △ 15 円 17 銭 |
| 増減額 (B-A) | △ 403 | △ 130 | △ 161 | △ 143 | — |
| 増減率 (%) | △ 19.5 | △ 80.7 | — | — | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期) | 1,684 | 30 | 13 | △ 49 | △ 14 円 77 銭 |

2. 平成 23 年 3 月期 第 2 四半期個別累計期間業績予想の修正等 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 22 年 9 月 30 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

| | 売 上 高 | 営 業 利 益 | 経 常 利 益 | 当期純利益 | 1 株当たり 当期純利益 |
|-------------------------------------|-------|---------|---------|-------|-----------------|
| 前回予想 (A) | 1,608 | 112 | 110 | 61 | 18 円 31 銭 |
| 今回予想 (B) | 1,503 | 94 | 51 | 23 | 6 円 94 銭 |
| 増減額 (B-A) | △ 105 | △ 17 | △ 58 | △ 37 | — |
| 増減率 (%) | △ 6.6 | △15.6 | △52.9 | △62.1 | — |
| (ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期) | 1,546 | 136 | 120 | 58 | 17 円 58 銭 |

3. 業績予想の修正の理由（連結・個別）

第2四半期連結累計期間につきましては、当社の主力事業の半導体資材事業は第1四半期まではフラットパネル市場における各パネルメーカーの供給増により当初計画を上回っておりましたが、第2四半期頃から欧州経済不安による需要の伸び悩み等により、顧客であるパネルメーカー等において急激な生産調整が始まりました。そのため、当事業での第2四半期が赤字となったことが原因で、第2四半期累計期間においては計画を達成できない見込みであります。従いまして、半導体資材事業の売上高は当初計画値1,035百万円に対し815百万円と△220百万円の差異、営業利益は当初計画値117百万円に対し75百万円と△41百万円の差異となる見込みです。衛生検査器材事業につきましては、売上高はシャーレや培地の価格低下が進み伸び悩んでおり、前年同期並みの計上となる見込みであります。従いまして、衛生検査器材事業の売上高は当初計画値772百万円に対し687百万円と△84百万円の差異、営業利益は当初計画値63百万円に対し45百万円と△18百万円の差異となる見込みであります。半導体資材事業および衛生検査器材事業での既存事業では黒字を確保しておりますが、新規事業では先行投資が続いているため、当社グループの計画達成に寄与できていないことが今回の修正の要因となります。新規事業の内容は以下のとおりとなります。プラスチック造形事業の株式会社ダイプラにおいて第2四半期は黒字化しましたが、第1四半期の赤字を埋めるまでには至らない見込みであります。売上高は当初計画値183百万円に対し145百万円と△37百万円の差異、営業利益は当初計画値11百万円に対し△15百万円と△27百万円の差異となる見込みであります。ポリマー微粒子事業のトライアル株式会社につきましては、売上高の回復基調が見受けられますが、自動車業界における研究開発費の支出抑制等の影響が続いており、売上高は当初計画値45百万円に対し16百万円と△28百万円の差異、営業利益は当初計画値△20百万円に対し△39百万円と△18百万円の差異となる見込みであります。P I M事業につきましては、エネルギー関連、自動車部品での開発が進みつつあり、先行投資を早期に回収すべき技術開発を推し進めている段階であります。従いまして、P I M事業の売上高は7百万円、営業利益は△34百万円となる見込みであります。

以上の結果、売上高は連結1,666百万円（前回発表予想値2,069百万円）、営業利益は連結31百万円（前回発表予想値162百万円）となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の見込みや為替差損26百万円の計上等により、連結△18百万円（前回発表予想値142百万円）と前回予想値を下回る見込みであります。

四半期純利益につきましては、上記経常利益の見込みから連結△50百万円（前回予想値93百万円）となる見込みであります。

なお、通期業績予想につきましては、現時点では精度の高い予想を行うことが困難なことから、変更は行いません。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上